

## 海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2019/03/04 ～2019/03/31)

<はじめに>

こんにちは。現在、ドイツ・ライプツィヒ大学に留学しているものです。こちらに来て1か月が経ち、これが初めての報告書になります。この1か月でいろいろなことを経験したため書いたことが多く、まとまりのないものになってしまうかもしれませんが、少しでもドイツ留学を目標とする誰かの助けになればと思います。

そもそもなぜドイツなのに4月から留学がスタートしているのか？と疑問に思った方もいるかと思います。ドイツでは(少なくともライプツィヒ大学では)実際のところ、Wintersemester(10月～)あるいは Sommersemester(4月～)、どちらからでも留学可としているようです。実際この時期からライプツィヒ大学へ留学しに来ている留学生も結構います。とはいっても夏休み明けが本来の学期はじめであるため、2学期目からだに参加する授業がいきなり一段階上のレベル、ということになるかもしれません。ですが、個人的にはあまり関係ないと思うので、もしこれを読んで悩んでいる方がいれば検討してみてください。

### 1. 勉学の状況

さて、3月11日に入学手続き Immatrikulation を済ませ、その翌日にドイツ語オリエンテーションコース Sprach- und Orientierungskurs へ向けたクラス分けテスト Einstufungstest が行われました。内容は文法事項を問うものが多く、日本で培った受験テクニックを駆使すると上級クラスに入れられてしまう恐れがあり、注意が必要です。と分かっておきながら、自分は一番上のクラスに入れられてしまいました。初日の午後にライプツィヒを散策してみようという催しがあったのですが、そこでいきなり各々が街のことを調べ、散策中にそれをドイツ語で発表することになり、なかなかハードなクラスだな…と不安になることもありましたが、ただ、3年間地道にドイツ語を勉強してきた甲斐もあってか、一昨年の夏に Inter-DaF の語学研修に参加したときよりも気持ちに余裕を持って参加できていたように思います。テストは200語程度の作文2つと、自分で選んだテーマについて15分ほど発表するというものでした。最低3つの資料を用いて参考文献リストに加えることと、発表時、クラス仲間にテーマに基づいてディスカッションをさせることも条件に組み込まれていました。自分はここで森鷗外の『舞姫』をテーマにし、自分なりにドイツに由縁のある日本の文学を紹介してみました。成績は1,3(1,0が最高、5,0が落第)で、ここまで良い評価をもらったことに自分でも驚いています。

ちなみに、アジア人はやはり文法が得意なようで、自分のクラスの半分以上が中国、韓国の留学生でした。日本人は一人だけでしたが、同じ東アジア出身なのにわざわざこの遠い国でお互いドイツ語でコミュニケーションをとるとするのは、面白い体験です。

この報告書を書いている今は、どの授業を取ろうかと悩んでいる最中です。やはり夏学期は開講される科目が講義 Vorlesung よりゼミ Seminar の方が多くなってしまうため、とれるかどうかの見極めが難しいです。とりあえず今学期一週目は気になる授業に出て、様子を見て決めていこうと思います。詳しい履修科目は来月の報告書に書きます。

## 2. 生活の状況

3月3日の午後にフランクフルト空港に到着し、そこで一泊した後（前から気になっていた東横イン・フランクフルト駅前に泊まってみました！中央駅から近くにあり、日本人スタッフもいるため、不安でいっぱい旅の始まりに泊まるにはお勧めです！）、ICE(Inter City Express)でライプツィヒへ向かいました。その列車の到着が1時間ほど遅れ危うく予定が狂うところでしたが、そこで Buddy が出迎えてくれ、おかげでその日中に無事に寮に入居することができました。その後 Buddy が寝具の買い物や住民登録、銀行口座開設などに付き添ってくれ、おかげでスムーズに生活に慣れることができたと思います。



寮の部屋

寮は風呂・トイレ・キッチンが5人共同ですが、個室はあります。大学まで徒歩10分ほどで行くことができ、近くにスーパーもある好立地ですが、部屋が6階なのにエレベーターがないという致命的な欠陥があります。家を出るのも嫌になる欠点ですが、いい運動だと思って毎日上り下りしています。食事は、学生証が手に入れば学食 Mensa が利用できるため、昼はいつもそこで食べています。授業が始まる4月からは19:30まで開いているので夕食も食べられます。料理は日替わり

でどれもおいしく、400円以下で満腹になれます。

と、ここまで書いてきた Buddy Program や寮については、千葉大での応募がすべて終わったあたりで Studentenwerk の HP(<https://www.studentenwerk-leipzig.de/>)で応募できます。そのほかにも学生用の有益な情報が多く載っているので、ライプツィヒ大学に留学しようと考えている方はよく見てみてください。

それから、日本人がドイツ留学するうえで必ず直面する問題はビザ関係だと思えますが、自分の場合いわゆる bürokratisch な手続きにはほとんどドイツ人の Buddy がそばについて話を進めてくれたので、本当に助かりました。たとえ自分のドイツ語に自信があるとしても国が違えばシステムも全く異なるため、その仕組みを理解するには苦労します。Buddy がいてくれなかったらどうなっていたらと思うと、やはり現地のチューターの力は借りるべきだと思いました。

こうした一連の手続きは州ごとに違うばかりでなく人によっても異なってくるため、どんなに情報収集しても必ず何かしらの問題には直面すると思っておいた方がいいと思います。と思ったのは、住民登録→銀行口座開設→ビザ申請という流れだと思って準備していたのに、銀行口座を開くために外国人局の書類が必要だということがわかり、焦ってその書類を外国人局に取りに行くということがあったからです（どうやらこの点はドイツ人の Buddy も知らなかったそうです…）。実はこれを書いている時点でもビザ申請書類に不備があり、まだ完了していないという状態なので、いつビザを取得できるか、まだ不明です。



日本米に似ている Milchreis を鍋で炊飯



国民劇場とゲーテ・シラー像 (Weimar)

止すべきだと思いました。

最後に少し楽しい話(?)も付け加えておきます。先日の日曜日に日帰りでワイマールまで行ってきました。小さい街ながらゲーテの家やリストの家など見どころがたくさんあり、充実した日帰り旅行でした。実はこの日、前もって行きの切符を購入していたのですが、電車の出発時間2分前に起きたため、切符代15ユーロほどが無駄になりました。3月の最終日曜日がサマータイムの移行日であることをあとで知り（この日だけ一時間短くなる）、まあこれが原因だと思うことにします。少し前に議論になっていましたが、やはりサマータイムは健康に悪いので廃

以下にライプツィヒ到着後の手続きを、あくまで一例として載せておきます。参考になれば幸い

です。

#### ①寮への入居

Studentenwerk のオフィスに出向き、パスポートを提示すると色々と書類を渡されサイン。別室で敷金と一か月分の家賃を現金で払い、その後自分の寮まで行き家主のところで鍵を受け取ったら完了。

#### ②住民登録

入居時の書類とパスポートを持って住民局へ。時間帯によって待ち時間あり。

#### ③外国人局で閉鎖口座開設用の書類をもらう

(少なくとも Sparkasse の場合は) 閉鎖口座を開くためには外国人局から「私は閉鎖口座 Sperrkonto を開きますよ」という趣旨の書類が必要になる。メールでも申請できるが返信に時間がかかるため、外国人局へ直接取りに行った方が早い。

#### ④閉鎖口座開設

書類を手に入れたら銀行へ。ドイツ銀行 Deutsche Bank は仕事が遅いという評判だが Sparkasse はうまくいけば一週間ほどで開設できる。開設申請後一週間ほどで寮のポストに諸々の手紙が届く。キャッシュカードが届いたら利用可能 (のはず)。

※もし渡航まで時間があるなら、日本にいるうちにドイツ大使館を通じて閉鎖口座を作っておけば③④の手順が省ける (かも?)

#### ⑤日本から送金・残高証明をもらう

一年間滞在の場合は 8640€を口座に振り込むことになる。Transferwise というアプリが早くて便利なので、日本にいるうちに使えるようにしておく。送金が完了したら残高証明を印刷するなり銀行で申請するなりして発行する。

#### ⑥ビザ申請へ!

<https://www.leipzig.de/buergerservice-und-verwaltung/aemter-und-behoerdengaenge/aemtertermine-online/terminanfrage-auslaenderbehoerde/>

上記のサイトの「Kontaktformular」から予約できる。予約は早くて1か月後ほどになることが多いため、書類がそろっていなくても予約はした方がよい。



Leipziger Buchmesse



Dresden (語学コースでの Exkursion)

## 海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2019/04/01 ～2019/04/31 )

### 1. 勉学の状況

4月1日から本格的に大学の授業が始まりました。自分が所属している Philologie 学部の留学生は基本的に教授との口約束で履修登録することになっているのと、自分は留学前に卒業要件の単位をすべて取り終わっていて単位振替を考える必要がないため、とりあえずは面白そうだなと思った授業に出てみることにしました。一か月がたちようやく授業が定まってきたので、順に紹介します。

#### ● *Vorlesung - Grundlagen der Phonetik in Deutsch als Fremd- und Zweitsprache*

これは講義形式で、ドイツ語学の中でも特に音声学を扱っています。すべてドイツ語ですが、非常にユーモアのある教授で表や画像を用いてわかりやすく説明してくれるので、今のところはほぼ理解できています。毎週行くのが楽しいな授業です。この講義は自分の所属学科外の科目ですが、留学生はどんな授業でも参加が許されているので取ることにしました。

#### ● *Übung - Übersetzen und Dolmetschen*

日本学科の院生用の授業ですが、日本人留学生として参加させてもらっています。日本人5人、ドイツ人5人という少人数の授業で、課題で出されたドイツ語の記事をペアで話し合いながら日本語に訳していくというものです。先生は日本人の方でドイツ人の学生も日本語が堪能なので授業中は日本語で会話することが多いですが、それぞれの母語の語感を持ち合わせて翻訳していくという作業は、なかなか体験できないものです。

#### ● *Vorlesung/Tutorium – Einführung in die Geschichte der neueren deutschsprachigen Literatur*

主に17世紀から現代までのドイツ語で書かれた文学を概観していくという講義で、Vorlesung (講義)と一緒に Tutorium (補習授業)もセットで受けています。日本ではあまり馴染みのないものですが、ドイツには Tutorium という授業があり、前のセメスターにその授業を修めた学生または院生が Dozent\*in (講師)となって、試験などに向けて補習を行ってくれるというものです。この文学入門の講義にはなんと留学生だけに特別に Tutorium が開講されており、毎週の講義に関する補習を行ってくれるので、ありがたく参加させてもらっています。参加者は4、5人ほどなので、わからないことは気軽に質問できます。講義での教授の話すスピードが速く板書するのも精一杯ですが、この Tutorium をうまく利用してついでいきたいです。

#### ● *Vorlesung – Einführung in die ältere deutsche Literatur*

中世ドイツ文学の講義です。現代ドイツ語ではなく古高ドイツ語や中高ドイツ語で書かれた詩を読んでいくため、なかなか理解できません。テストを受けられる自信がないので、これは聴講することに決めました。

- **Vorlesung - Einführung in die Kinder- und Jugendliteratur**

これは児童文学についての講義ですが、教授が体調不良のため実はまだ一度も開講されていません。そのため履修するかどうかはこれから決めていくことになります。

- **Aufbaukurs: Sprachpraxis Phonetik** (B2 レベル以上)
- **Aufbaukurs: Sprachpraxis Schreiben** (C1 レベル)
- **Aufbaukurs: Sprachpraxis Konversation** (C1 レベル)

3つまとめて書いたのは大学の正規の授業ではなく、留学生向けに開講されているドイツ語のクラスです。授業は大学から少し離れた Studienkolleg Sachsen というところで行われます。これは交換留学生やエラスムスの学生ならば無料で受けられるもので、先月の報告書で書いたクラス分けテストの点数によって、受講できる授業が変わってきます (B1 レベルから開講されているので、ライプツィヒ大学の応募条件に B1 レベル以上と書かれているのはそのためでもあると思われます)。参加するには学期はじめの登録日にオンラインで登録する必要があります。履修したのは上から順に発音、作文、会話の授業です。発音の授業は楽しみながらドイツ語の発音の特性を知っていこうという内容で気楽に参加できるのですが、作文と会話の授業はやはり上級クラスということもあり、レベルが高いように感じます。作文の授業ではゼミや演習で課されるレポートの書き方をより実践的に学んでいます。会話の授業ではディスカッションで用いられるドイツ語表現を学ぶことのほか、プレゼンテーションの組み立て方や論理的な思考の筋道を知る、ということも扱っています。中間発表でデンマーク出身の留学生とペアを組んでプレゼンをすることになったのですが、誰かと協力して準備・発表するという経験はこれまであまりなかったので、うまくできるかどうか心配です。

聴講も含めると週に 8 回授業に出ていることにはなりますが、授業がない時間にも日本語を学んでいるドイツ人学生とタンデムをし、ドイツ語で話す練習をしています。日本でドイツ語を学んできたおかげで自分の言いたいことは大体言えるようにはなりましたが、アカデミックな話題になるとまだ難しいです。もちろんドイツ語の語彙力が乏しいことも原因の一つではあると思いますが、それよりも最近気になるのは、思考力の乏しさです。言いたいことが言えないのではなく、言うことが見つからない、要するに考える力が足りないためにアイデアが思い浮かばない、ということが自分の欠点だと思うようになりました。そのため今期はディスカッションが中心であるゼミへの参加はやめ、講義を多めに履修しています。タンデムやドイツ語会話の授業を通してそうした欠点を補えるようになることが今後の課題であり目標です。

## 2. 生活の状況

先月書いたビザですが、ようやくすべての書類を外国人局に出し、5月中には受け取れることになりました！先月の報告書を書いた後、自分の銀行口座はまだ普通の預金口座で、さらにそれを閉鎖 sperren する手続きが必要だとわかり、急いでその手続きを終わらせました。ただその銀行窓口の人が容赦なく、行くたびに「予約してから来て」「お金が足りてないからまた来て」「手

数料も必要だから振り込んでからまた来て」と言われ、もう顔を覚えられないぐらい何度も足を運ぶ羽目になりました。本当にこの国のシステムは複雑で、融通が利かないものだなあと感じます。あれほど入念に準備していたビザ申請にここまで時間がかかるとは予想しておらず…。さらに証明写真は背景が白でないとダメだから撮り直してと言われ、おかげでドイツの証明写真機の使い方をマスターしてしまいました（一回6ユーロ）。

そんなこんなで大変な事務手続きに追われた4月ですが、様々な出会いができた月でもありました。同じ寮に住んでいるドイツ人が一度夕食に誘ってくれたり、WILMAという団体が企画する小旅行で友達ができたり、日本に留学していたらしいロシア人留学生と仲良くなって一緒にコンサートを聴きに行ったりと、書きだしたらキリがないですが、どれもここに来ていなかったら出会うことのなかった人たちなんだなと思うと、留学を決心して良かったなと思います。特に日本学科の学生たちは、自分たち留学生と同じようにお互い友好的な関係を築きたいと思っているので、友達作りやすいです。自分よりも前に留学しに来ていた日本人留学生から聞いて気づいたのですが、ドイツ人学生にも日本人と交流する際に少しハードルを感じ、遠慮がちになる人がいるみたいです。それはもっぱら言語と文化の違いによる心の壁だと思いますが、せっかくお互いの文化を学んでいるのだから、どちらかがその緊張の壁を壊して積極的になれば、より良い出会いができるのではないかと思います。

もう少し具体的な生活状況について書いておきます。はじめ5人共同のWGはどんなものかと心配していましたが、意外と同居人はみんなおとなしい？のであまりお互い干渉しません。たまにキッチンで顔を合わせてHalloと言葉を交わすくらいなので、夜うるさくて眠れない、勉強に集中できない、などといった問題はありません。むしろ優しく友好的な人が多く、この前に日本からの荷物が別の部屋に預けられていた時も、取りに行くまでそこに住んでいる学生がしっかり保管してくれていました（ドイツでは在宅中であってもインターホンすら押さずに不在票が入れられることがあり、そのうえ再配達制度も（ほぼ）ないので、寮の場合は特に同居人に預けられることが多いです）。ちなみに同居人は4人中3人がドイツ人なので大体いつもドイツ語で会話します。洗濯機は1回2.30€で、乾燥機はまた別にお金がかかるので、いつも部屋干ししています。寮にはMusikübungsraum（音楽練習室）という部屋があるので、たまにそこで気分転換に日本から持ってきた楽器を吹いています。寮にはバーもあります。平日の昼夜は大学のMensa（学食）で済ませることがほとんどですが、土日は簡単に自炊しています。スーパーが近くにあり、中心街に行けばアジアショップで米や麺類、調味料なども手に入るので、食べ物にはあまり困りません。日本製のラップとにんにくチューブだけは大量に持って来るべきだったと思うくらいです。日用品はdmやTedi、M&C Geizのような店で安く買えるので（100円ショップほどではないけれど）、よく使っています。またライブツィヒからバスで30分ほど行くとIKEAがあり、食器などが非常に安く手に入ります。一度行ってみました。まあどこの国のIKEAも同じような雰囲気なんだなという感想です。

3月に比べ少しずつ暖かくなってきましたが、一日の気温差が激しく朝晩は5度以下になることがしばしばで、まだ防寒着は必要です。

最後にまた少し写真を載せておきます。



G2 号館ほどの広さの Hörsaal(講義室)。文学入門の講義は人気でほぼ満席になります。



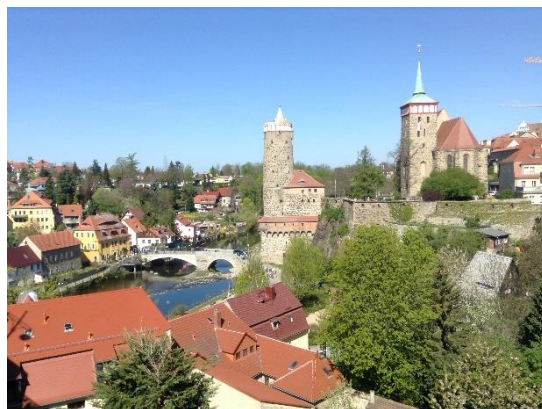
日本学科 Japanologie の学生との交流会。カラオケ機がありました。



ドイツ人の友達の好意で柔術の練習を体験させてもらいました。



4月にイースター休暇があり大学が休みだったので、色々日帰り旅行をしました。  
順に Spreewald、Bautzen、Leipzig のマーケット



## 海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2019/05/01 ～2019/05/31)

### 1. 勉学の状況

授業の雰囲気がかめてきたと同時に、少しずつ忙しくなってきました。先月の報告書に書いた通りこのセメスターでは週に合計で9つの授業を取っており、さらに3～4人のドイツ人とタンドムを行っているため、いい意味で充実した毎日を送っています。ただ全てをこなすには時間が足りず、聴講だけの講義や自分の卒論に関する勉強はほとんどできていません。来セメスターは欲張らず、もう少し余裕のある履修を考えたいと思います。

今のところテストを受ける予定の授業はドイツ文学史の講義と、Studienkolleg Sachsen で行われるドイツ語の各授業（発音、作文、会話）の合計4つです。文学史のテストは、講義で扱ったドイツ文学の時代区分の中から一つを選び、口頭試験（mündliche Prüfung）の形式で回答するというものだそうです。大学の授業で口頭試験というのは今までに経験のない形式なので非常に不安ですが、前回も書いた通り補習授業（Tutorium）を利用して少しずつ試験の準備をしています。考えてみればドイツという国は対話を大事にする国なので、ディスカッションやプレゼンテーションはもちろん、こうした試験においても、単なる知識の暗記にとどまらない口頭表現が非常に重要視されているように思います。Studienkolleg Sachsen の授業では、発音の授業以外は今月中にすでに成績評価の機会がありました。作文の授業ではレポートで用いる参考文献リスト（Literaturverzeichnis）を正確に書けるかという小テストと、レポートの導入部分（Einleitung）と結論部分（Zusammenfassung）を書いて提出するという課題がありました。千葉大の英作文の授業で一通り英語のレポートの書き方は学びましたが、ドイツ語での書き方はそれとは全く異なっており、この授業を取っていて良かったなと思います。会話の授業では学生がそれぞれのテーマをプレゼン形式で発表する Input の授業と、それについて教室全体で議論する Diskussion の授業が交互に行われています。自分はまだ発表していませんが、ディスカッションへ積極的に参加しているかどうかは今月の授業で評価されました。初め何をディスカッションしたらよいのか全くわからずなかなか発言できずにいましたが、黙っていてもしょうがないので拙いながらも必死にドイツ語での発言を試みました。正直これが一番大変な授業ですが、どの言語であろうと自分はディスカッションが苦手だと自覚しているので、良い修行だと思って頑張っています。クラスメートの留学生はみんな良い人ばかりです。

今までほぼドイツ語で生活してきたのでドイツ語力は少しずつ身につけてきましたが、その代わり英語がほとんど話せなくなっていることに気が付きました。もちろんドイツにいれば特に問題はないのですが、より多くの留学生と仲良くなるためには英語が必要であり、将来的にも英語は話せるようになるべきだと思うので、WILMA の旅行などで友人と話す際はなるべく英語で話すように心がけています。

## 2. 生活の状況

5月27日(ドイツに来て86日目)にようやくビザの受け取りが完了しました。パスポートに貼付するのかと思いきや Aufenthaltstitel と書かれたプラスチックのカードが渡され、どうやらそれが滞在許可の証明になるようです。

さて、ドイツに来てからすでに3か月がたち、自分でも驚くくらいの時間の流れの速さを実感しています。よく留学は後半になるとあっという間だ、と聞きますが、自分の場合はまだ4分の1しか経っていないのに何もかもがあっという間に過ぎていくように感じられます。それは日本にいた時よりも毎日が充実しているからだと思いますが、しっかりと目標を据えて一日一日を大事に生活していきたいです。

今月半ばについて髪を切りに行きました。友人が勧めてくれた床屋で、カットのみが12€。海外の床屋は初めてだったので相当の覚悟が必要でしたが、おかげでスッキリしました。日本ではハサミで少しずつ切っていくスタイルですが、ドイツではバリカンがメインでハサミは微調整の時のみ使うようです。それから先日携帯の sim カードを新しく買いました。今まで日本で90日有効の sim を買って使用していたのですが、有効期限が切れそうだったので大手キャリアの Vodafone に切り替えました。プリペイド式で初期費用は15€、月々9.99€を支払うと2ギガ分のインターネット(4G)が利用できます。基本的に国外でも利用できるようです。他にも大手キャリアはありますが、Telekom は月々1.5ギガで少ないかなと思い、O<sub>2</sub>は整備がまだ不十分でつながりにくいという噂を耳にしていたため、友人もよく利用している Vodafone に決めました。購入の際には住民登録票など住所がわかる書類が必要です。ドイツ人の友達が購入時に付き添ってくれたので非常に助かりました。

今月は2回、WILMA の旅行に参加しました。まず、前からずっと行きたいと思っていたハルツ山地にある、ヴェルニゲローデという町です。自分の趣味の一つでもあったハイキングができ、良い気分転換になりました。2つ目は隣国チェコの首都プラハへの2泊3日の旅行です。この旅行は予約制で事前に75€を払って事前に申し込みました。ホステルの宿泊代と朝食代が含まれているうえにチェコは物価が安いので、それほどお金をかけずに旅を満喫できました。個人的に印象に残っているのは、チェコ生まれのドイツ語作家フランツ・カフカの博物館に行けたことです。ずっと彼の生まれ育った町を一度この目で見てみたいと思っていたので、来た甲斐がありました。また何よりもこの旅行中にまた仲のいい友人ができたことが一番の収穫だったと思います。ドイツ語ではなく英語でコミュニケーションを取りながら、楽しく過ごすことができました。夕方にビールを飲みながら眺めるドナウ川の景色も最高でした。

5月末から急に気温が上がり、最近では最高気温が30度を超える日もあります。ドイツの家には基本的にクーラーが無いので、気温が下がる朝晩に窓を全開にして空気を取り込み、昼間は窓を閉めると同時にブラインドをおろして日光を遮り室内温度を保つ、といった工夫が必要です。こんなに早く半袖デビューするとは思っていませんでしたが、雨が降ると急に涼しくなることもあるので、体調を崩さないように気を付けたいと思います。



### Palmengarten

ライプツィヒにはこのような公園がたくさんあり、たまにタンデムで会話練習をしながら散歩をしています。

Das japanische Haus  
「日本の家」での  
Tea-time イベント



中心街の日本食レストラン  
ラーメン一杯 10€ほど。

<WILMA ハルツ旅行>



<WILMA プラハ旅行>



↑ Franz Kafka Statue (左) とプラハ名物の Trdelník (右)



## 海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2019/06/01 ～2019/06/30)

### 1. 勉学の状況

6月に入ってから周りの人も続々と試験に向けて勉強し始め、中心キャンパスにある図書館は昼間ほぼ満席状態です。この図書館は年中24時間開いているので、とても便利です。

今月は2つの発表形式のテストがありました。まず一つは Studienkolleg Sachsen のドイツ語クラスでの音声学の授業でした。内容は各々が研究していることについて5分でまとめてプレゼンするというもので、ここでは自分の研究テーマと関連のある間テクスト性について発表しました。音声学の授業なので内容はそれほど重要ではなく、単語の発音はもちろん、文の抑揚や話し方、発表中の立ち振る舞いなどが重視されました。自分の好きな研究テーマについて語るというのは何よりも楽しいもので、このトピックをドイツ語でまとめるのは初めてだったのですが、個人的には満足のいく発表ができました。もう一つは同じくドイツ語クラスの会話の授業で、デンマーク出身の留学生と二人組で15分ほどのプレゼンをしました。テーマはドイツの保守的な政治団体 PEGIDA (西洋のイスラム化に反対する欧州愛国者) についてで、とくに最近スキャンダルになった LKA-Mann と呼ばれている人物にフォーカスを当てて発表をしました(彼がどんな人物なのか、気になる方は googeln してみてください)。もともとあまり知識のない政治分野についていきなり発表するというのは至難の業でしたが、随分前から発表パートナーと毎週会い、調べてきた情報や作成してきた資料などを持ち合わせ、着実に準備を進めてきたのでそれほど焦らずに発表に臨めたと思います。今まで2人以上での発表をする機会がなく不安ばかりでしたが、パートナーも積極的に取り組んでくれたおかげもあり、これぞ協働学習と呼べるものをなんとか成し遂げることができました。また今回の発表で心がけたのは、「自由に話す(frei sprechen)」ということです。これまでは頭で考えた原稿を書き起こし、それをなるべく覚えてから発表するという方法でやってきましたが、どうもそれだと口調が機械的になりがちで、臨機応変な対応ができません。ということで今回は話すポイントだけをまとめたメモだけを用意して臨み、なるべく自然(spontan)な発表になるよう心がけました。いつまでも機械的に覚えていたのでは納得のいくプレゼンはできないので、なるべくこれからも生き生きとした発表ができるように努力していきたいです。

その他テストではありませんが、作文の授業でもいくつか課題がありました。与えられたテーマについてレポートの導入(Einleitung)、要約(Zusammenfassung)、批評文(Kommentar)を書いてメールで提出するというものです。あらかじめ書くことが決まっていてそれをドイツ語で書くだけなら難しくないのですが、レポートの構成を守りつつ自分の意見も織り交ぜなければいけないとなると、やはりそれなりに時間はかかります。締め切りギリギリになることもありますが、毎回しっかりと時間をかけて取り組むようにしています。

授業以外でもドイツ語を自学自習しようと思っはいるのですが、暑さのせいあまりやる気が出ず課題をこなすだけで精一杯です。

## 2. 生活の状況

炊飯器を買いました。鍋でも十分炊けるのですが、コンロの火加減が難しかったり鍋にこびりついたりして色々面倒なので、20ユーロ弱で買いました。まだまだ留学期間は残っているし、このコスパなら買う価値はあったと思います。4月の報告書で寮暮らしは特に問題は無いと書きましたが、長く暮らしてみるとやはり悪い面も見えてきます。同居人はみんな確かにいい人なのですが、掃除をしなさすぎて困ります。特にキッチンひどく、一度きれいに掃除しても一週間後には床やシンクにゴミや食器が散らばっていて、片づけられる気配がありません。ときには自分が買ったフライパンを勝手に使われ（そこまでなら良い）、使用後洗いもせず、油がこびりついたまま食器棚にしまわれていたこともありました。直接文句を言えばいいのですが、なにしろいつ家にいるのかわからないくらい同居人は静かなので（笑）、まあそんなに目くじらを立てるほどでもないかと我慢しています。それにもし誰も掃除をしないなら自分がやればいかと、最近勝手に掃除係になっています。

6月は一言でいえば、(ありがたいことに)音楽尽くしの月でした。6/14~6/23まで毎年恒例のバッハ音楽祭がここライブツィヒで催され、数ある音楽家たちによる演奏会がいたるところで開かれていました。自分もバロック音楽は好きで普段からバッハの音楽をよく聞いているので、こんなにありがたいイベントはありません。ハノーファーに住んでいる知り合いが音楽祭期間中に遊びに来た際には、ストラヴィンスキーのバレエを観ました。バッハ音楽祭の後、28日と29日にはゲヴァントハウス管弦楽団による無料の野外コンサートが開かれました。これも毎年の恒例行事となっているようです。この季節ライブツィヒだけでなくドイツ中で野外コンサートが催されているようで、その翌日にはベルリンフィルのヴァルトビューネ・コンサートがありました。中学生のころから将来いつか絶対聴きに行こうと夢見ていたコンサートだったので、絶対に逃すまいと思い弾丸で聴きに行ってきました。ベルリン中の市民もこのコンサートを待ち望んでいたようで、クラシック音楽はドイツの人々の生活には欠かせないものなのだとことを、改めて感じました。

6月は暑い日が続きました。26日にはコシェンという町で38.6度を記録し、6月の観測史上最高気温を更新したそうです。気候変動ではなくアフリカ大陸からの熱波が原因だそうですが、それでもここ最近気温が上がってきているとドイツ人の友達から聞きました。この報告書を書いている今はそれほど暑くなくて長袖シャツで快適に過ごせる程度なのですが、「ドイツは夏でも比較的涼しい」という常識が少しずつ覆されつつあるのかもしれない。前回の報告書でも書いた通り部屋にはクーラーが無いので、なるべく涼しい時間帯に窓を開けて換気をしています。が、この国では窓からの景観を守るためか網戸が付いていません。特に夜になると部屋の明かりに吸い寄せられて様々な虫が部屋に入り込んできます。虫と一緒に寝ることについて耐えられなくなったので、先日簡易網戸を買って取り付けました。エアコンなしで暑い夏を切り抜けるには、



まだまだ工夫が必要なようです。ちなみに、最近はドイツのスーパーでアクエリアスが売られているのを見かけるので、いい熱中症対策になると思います。日本で馴染みのある食べ物と言えば、最近キットカットの抹茶味がドイツに上陸しました。日本ではほとんど興味が無かったのに異国の地でそういうものを目にするについ手に取って買ってしまうのは、なんだかおかしなことです。

<Leipzig の写真>



バッハ音楽祭  
夜の野外ステージ

オノ・ヨーコさんの展覧会がライプツィヒで開かれました。前衛的な作品を目の当たりにして、人類全体の問題を考えさせてくれる展覧会でした。日独の垣根を超えた空間です。



日本学部の学生が企画してくれた旅行で、Belantis という遊園地を訪れました。ドイツ人は絶叫系に強いみたいです。

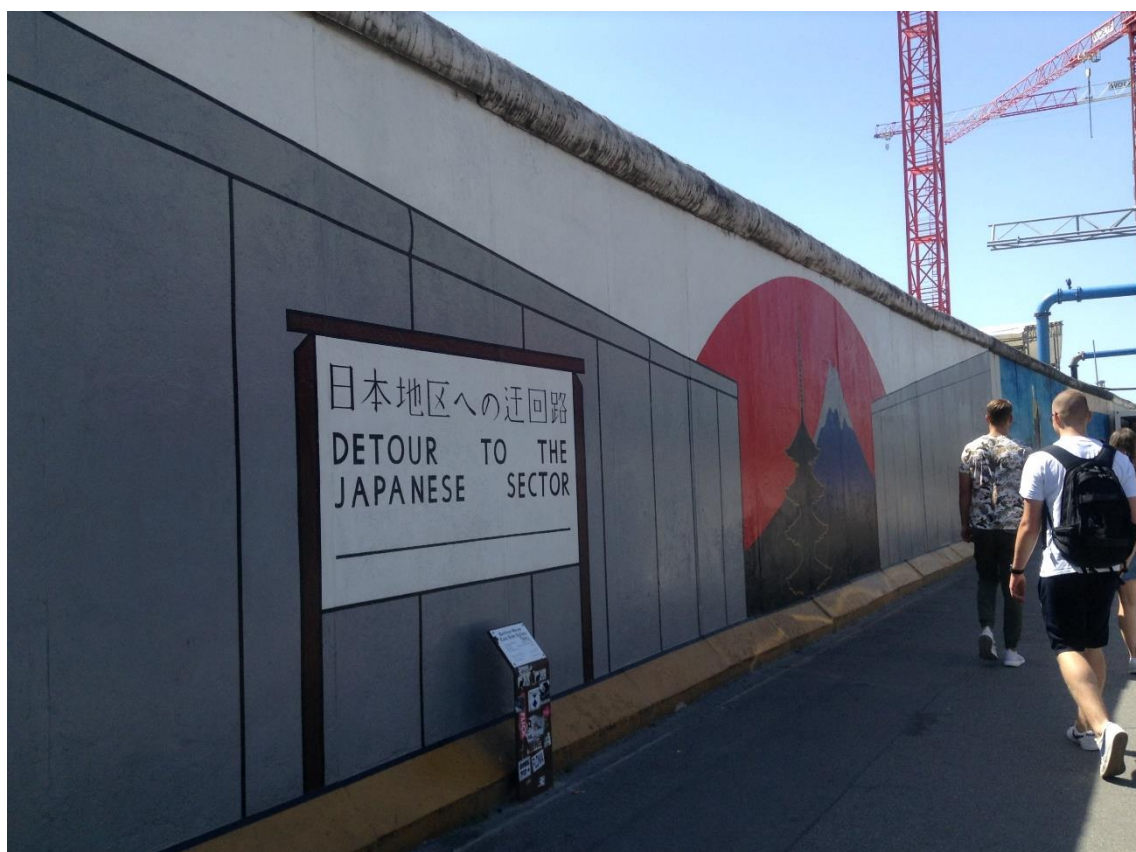


ゲヴァントハウス管弦楽団の野外コンサートと美しい夕焼け。

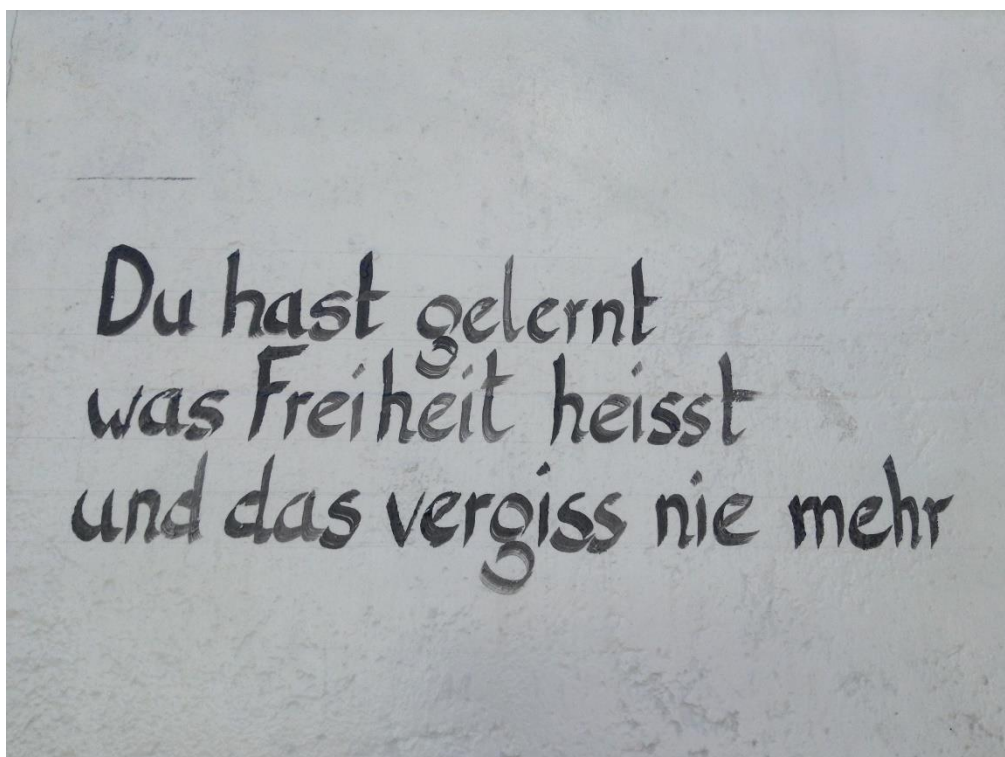
## &lt;Berlin の写真&gt;



Tempelhofer Park: 旧テンペルホーフ空港は冷戦時代、ベルリン大空輸の際に利用されました。現在は公園として再利用されており、ベルリン市民の憩いの場となっています。滑走路で自転車やセグウェイに乗って楽しんでいる人が多くいました。



East Side Gallery: ベルリンの壁跡には様々な絵が描かれ、中にはこんな日本とのつながりを感じさせてくれる作品もありました。



壁にかかれていたメッセージ

「あなたは平和が何なのかを学んだ、だからそれを二度と忘れないように」



ベルリンフィルハーモニー管弦楽団  
ヴァルトビューネ・コンサート

## 海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2019/07/01 ～2019/07/31 )

### 1. 勉学の状況

今月はドイツ語会話と大学の講義科目の2つのテストがありました。Studienkolleg Sachsenでは大学の通常科目よりも早くにテストが行われるため、ドイツ語会話の方が先でした。このテストは口頭試験形式で、他の学生と2人組で受けます。まず前半では授業で扱ったテーマが書かれたくじを引き、それについて5分ほど語るというものです。自分はここで「„Bildung(人間形成、教養)“と„Ausbildung(専門教育)“の定義の違いはなにか」というものを選び、日本語でも説明に困るようなことを苦労しながら回答しました。後半は2人組パートナーとのディスカッションで、同じく授業のテーマの中から1つ、くじ引きで決めます。テーマはポリティカル・コレクトネスでした。例えばドイツ語では、男性教師のことを„der Lehrer“、女性教師を„die Lehrerin“と男女で別々の単語を用いますが、その煩雑さと性差別的であることからニュートラルに„die Lehrkräfte“と表記しよう、という動きがあるそうで、他にも排他的な„Ausländer(外国人)“ではなく„Menschen mit Migrationshintergrund(移民背景のある人々)“と表記するなど、数多くの例があります。日本語には身分や職業を男女別に表記する文法がドイツ語に比べ少ないと思いますが、「看護婦→看護師」や「障害者→障がい者」などの例がポリティカル・コレクトネスに当てはまります。ドイツ語は少々やりすぎではないかと個人的には思うのですが、ドイツ人はこういう部分に几帳面で、そもそも彼らとは言語感覚が違うので一概には言えませんが、差別を無くそうとする動きが盛んな昨今ではよく考えるべき問題ではないかと思います。と、こんなことを考えながら試験を受けましたが、正直言ってあまり満足のいく試験ではありませんでした。取り扱いの難しい問題について言語化するの(外国語ではなおさら)非常に難しいです。もう一つの講義科目のテストは、ドイツ文学史についての口頭試験でした。文学の時代区分(Epoche)から一つを選んでその概念等を説明するものと、それとは別の時代にかかれた文学作品の一つを選び、それについて語るというもので、全部で15～20分ほどでした。こちらは準備期間が十分にあったのでうまくできました。一つだけうまく答えられない設問がありましたが、結果的に1,3の成績を貰えたので満足です。

その他のドイツ語の授業でも成績表をもらい、聴講していた授業でも授業終わりに教授にTeilnahmescheinのサインをお願いするとECTSが2ポイントほどもらえました。Germanistik学科の場合はそれらの証明書をLearning Agreementの諸々の書類とまとめて学科に提出すると最終的な成績証明書を発行してもらえらしいです。自分はエラスムスの学生ではなくただの協定校間の留学生だと思っていたのですが、ライプツィヒ大学にとってそんなことはどうでもいいらしく、エラスムスの学生と同じ書類を書かされました。

授業期間が終わって今は夏季休暇に入っています。3か月近くも休みが続くのでこれからどう

過ごそうか決めかねていますが、勉強面ではとりあえずドイツ語で書かれた本を読んだり文法書を進めたりしながら語彙を増やしていきたいと思っています。

## 2. 生活の状況

前回の報告書でキッチンが汚いと書きましたが、さらに酷くなりました。ゴミの分別を全く考えずに何でもゴミ箱に放り込まれるので悪臭を放ち、大量のハエが飛び回る有様でした。そのうえ誰も処理しようとしなかったのになんとかそれを片づけ、「生ごみや液体は捨てないでくれ」と書いた張り紙を張っておきました。それで少しはましになったかもしれませんが、いまだにキッチンは汚いまです。もしこれ以上悪化するようならハウスマイスターに言いに行こうと思います。



今月頭にはテストがあったのであまり身動きが取れませんでした。終わってからは色々出かけました。ヨーロッパ最大級の規模といわれているライブツィヒ動物園や電車で20分ほどで行ける隣町 Halle に足を延ばしたり、湖のビーチで友達とピクニックのようなものをしたりと夏らしいドイツを満喫しています。海が近くにない分キレイな湖がいたるところにあり、地元の人に人気の憩いの場

となっています。お年寄りも泳いでいたりして驚きです。ただこの夏は本当に過酷になりそうなのでこうした形で暑さをしのごうとするのもわかります。ライブツィヒ近辺以外では前からずつと行って見たかったハンブルクと、その近くの町ブレーメンに行きました。どちらも非常に美しい街でした。

このセメスターで帰ってしまう留学生が多く、その人たちのお別れパーティに参加することが何回かありました。春から来て春に帰るという留学をするのは日本か中国・台湾の学生くらいのもので、たいていはみんなこのタイミングで母国に帰ってしまいます。せっかく仲良くなった友達とすぐに別れることになるのは惜しいです。日本人留学生仲間からはいらなくなったものや日本食の調味料などをもらいました。こっちに来てから色々な場面でよく助けてもらっていたので本当にありがたいです。休暇期間は学食が夜には閉まってしまうので、これからはなんとか自炊を頑張らなければなりません。



ライプツィヒ動物園  
住民登録の際にもらったクーポンで割引価格で  
入場できました。

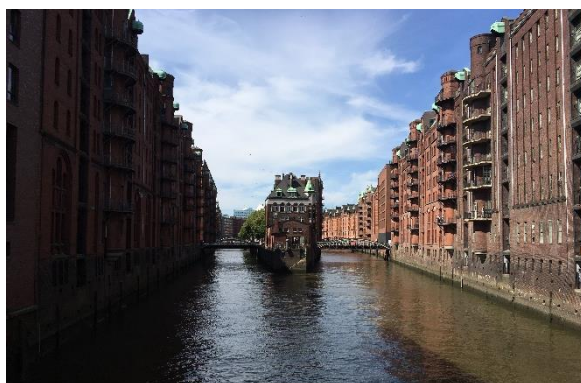
学生オーケストラのコンサート  
ブリテン『戦争レクイエム』

学生団体による戦争の想起イベントの一環とし  
てたまに行われているようです。



隣町の Halle  
Semester Ticket で行けるのでお金をかけずに  
行けます。

ハンブルクの倉庫街（世界遺産）





## 海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2019/08/01 ～2019/8/31 )

### 1. 勉学の状況

8月に入ると授業は一切なかったので自学自習をしていました。ライブツイヒで買ったドイツ語の上級レベル文法の参考書を進める傍ら、たまにタンデムでドイツ人の友達と会話練習をしました。自分のタンデムパートナーの多くは来学期から日本で交換留学をするということで、日本の大学や生活のことなどを教えたりしていました。他には図書館で借りた本を暇な時間に読んでいます。村上春樹のドイツ語訳版が多くそろっており、日本学科の図書館には原語の本も置いてあるので、それと読み比べながら読むといい勉強になります。村上春樹は一文一文を単純に書いているため翻訳版でも読みやすく、単語さえ調べれば簡単に読むことができます。単語力増強には良い勉強法です。

と自分が実践している方法を色々書いてみましたが、やはり授業期間に比べてドイツ語を用いる時間は激減してしまいました。インプットした知識をアウトプットする場が無いのでなかなかモチベーションもうまく保てません。下にも書きましたが今月は断続的に旅行をしたので、行く先々の観光名所でドイツ語ツアーに参加してみたり、現地の人に積極的に質問してみたりなど、自分でできる限りドイツ語会話の機会を増やすしかありません。interDaF のサマーコースに参加している日本人留学生の友人もいますが、3週間のコースのみで845ユーロもかかるので諦めました。

### 2. 生活の状況



ケットでおなじみの Flixbus の深夜バスでライプツィヒから約9時間（長い…）、早朝にアムステルダムに着きました。中央駅を出たとたんに（初めは何の匂いかわからず後で友達に教えてもらったのですが）マリファナの匂いがしたのを覚えています。こ

このあたりの事情はあまりよく知らなかったのですが、オランダでの大麻の保持・使用は合法なのではなく黙認されているだけであり、行政の管理下で認められた店でのみ販売されているということです。違法であるとはいえ、公共の空間でもマリファナの匂いがしたことには驚きました。町中にあるコーヒーショップでも買おうと思えば誰でも買ってしまうということも恐ろしい話です。またアムステルダムには飾り窓地区という所があり、ここでは売春が容認(?)されているようです。一つの観光地になっており昼間には子連れの家族も歩いていたりして驚かされました。このような日本の常識では考えられないことが行われていても治安はそれほど悪くなく、「多少の自由があったほうが犯罪は少なくなる」という考え方の政策も一理あるのかなと皮肉ながら思っています。街自体の風景はまた素晴らしいもので、オランダ旅行中に寄った隣町ハーレムはアムステルダムとは打って変わり穏やかで、オランダと聞いて連想する風景に近いものが見られました。オランダの後はバスでドイツに戻ってケルンとデュッセルドルフを観光し、千葉大に留学していた現地在住の友達と再会を果たしました。ドイツでまた会おうと約束していたのでその目的を果たせて良かったです。

ちなみにこの旅行中は同行していた友人のみと行動していたわけではなく、現地に住んでいるその人の友人に街を案内してもらいながら観光しました。日本人からするといきなり知らない人を紹介されると少し戸惑ってしまいますが、ヨーロッパの人にとっては普通なようです。友人曰く、特にヨーロッパ人にとっては旅行していても地元と同じような風景ばかりでつまらないから、現地の人に出会って案内してもらい、一緒に食事をし、会話を楽しむことが一番大事なのだそうです。考えてみれば特に日本人はどこか観光地に「行く・いる」ことに焦点を置きがちですが、ヨーロッパの人は人との交流を本当に大事にしています。一味違った旅を経験できただけでも有意義な旅行だったと思います。

オランダ旅行以外には大体一人でふらっとライプツィヒ周辺の町に日帰り旅行をしたり、最近

こちらで知り合ったロシア出身の友人と 1週間ほどオランダとドイツ国内を旅行し、それが非常に印象的な体験だったので今回はそれを中心に書いていこうと思います。格安チ

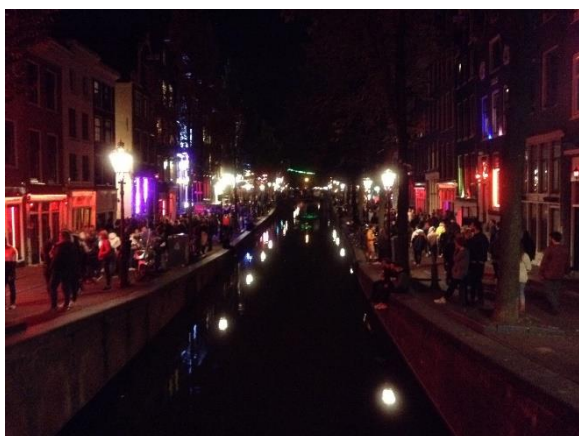


だとニュルンベルクとレーゲンスブルクへ 3 日間ほどの小旅行をしたりしました。誰かと一緒に会話を楽しみながらする旅行も良いですが、たまにはこうやって一人気の向くままに旅行するのも楽しいです。



旅行以外では一度、ライプツィヒの「日本の家」を訪れる機会がありました。この家の設立から現在までの過程をたどったドキュメンタリー映画の上映会でした。考えてみれば自分はまだこの家のことを日本人でありながらほとんど知らずにおり、この映画を見に行ったのは良い機会でした。この家が建っているアイゼンバーン通りはかつて「ヨーロッパ最悪の通り」と呼ばれていたほど治安が悪かったそうで、現在は良くなってきたようですが今でもまだネガティブな評判は残っています。そのためなかなか行く勇気の出ない「日本の家」ですが、実際行ってみると非常に興味深いところです。性別や年齢、国籍、宗教などは全く関係なく誰にでもオープンな空間で、そこを良く訪れている人はみんないつも幸せそうに話しています。確かにここは訪れるには安全な地域とは言い難いので日本人留学生は行くのをためらってしましますが、それでもどうかして行ってみれば必ず良い出会いがあると思います。

前回の報告書で夏休みをどう過ごそうか迷っていると書きましたが、考えた結果一時帰国することに決めました（実はこの報告書も日本で書いています！）。2 週間ほど日本に滞在し、またライプツィヒに戻ります。なぜ一時帰国することにしたのかは来月（自分の気持ちの整理のためにも）書きたいと思います。



アムステルダム  
飾り窓地区



ハーレムの運河とつり橋



夜のケルン大聖堂

ケルン市  
ナチス記録センター

ゲシュタポに逮捕された人の拘留施設





デュッセルドルフ  
ライン川の眺め



レーゲンスブルク  
世界遺産の旧市街と  
ドイツ最古の橋 Steinerne Brücke



シラーの家 (ライプツィヒ)  
彼はライプツィヒ滞在中、  
第九で有名な歓喜の歌を書いたと言われている

ゲヴァントハウス管弦楽団  
新シーズン開幕公演



## 海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2019/09/01 ～2019/09/30 )

### 1. 生活の状況

先月の報告書でも書いた通り 9 月は一時帰国しておりました。そうすることに決めた一番の理由は「リフレッシュしたいから」でした。自分は今もうこれで 3, 4 回ドイツに足を踏み入れていることになっていきますが (ライブツィヒは 2 回目)、見慣れた街で特に勉強するわけでもなくただボーっと生活していると留学の目的がわからなくなってしまうと思い、もう一度留学について見詰めなおすためにも一度帰ることにしました。「限られた時間しかないのにもったいない」という声もあるかもしれませんが、これまでもそうもったいないと思いながら結局何度もドイツに来ているので、この先もどうせまた来ることになる予感がするし、別に今無理して居続ける必要もないなと思ったのです。別に一時帰国で将来の方向性が定まったわけではなく現在進行形で迷い続けていますが、気持ちを入れ替えてあと半年の留学をもっと楽しもうと思えるようになったのも確かです。



ドイツに戻ってきてすぐミュンヘンで友達と合流し、前から行きたいと思っていたオクトーバーフェストに行きました。12 時のビール解禁後はどのテントもお祭り騒ぎで、自分たちのグループも負けじと約 1L のビールを飲みながら大いに楽しみました。この空間に足を踏み入れると知人他人はもはや関係なく、みんなノリで Prost! (乾杯!) したり歌いあったりと一緒にビール祭りを楽しめます。こんなに他人に対しておおらかで、(いい意味で) 相手に気を遣わずすぐ仲良くなれる空気というのは日本では絶対味わえないと思います。服

がビール臭くなるのとお金が消えるようになっていくので (高い) そう何度も足を運ぼうとは思いませんが…。

大盛り上がりのオクトーバーフェストのあとはまだライブツィヒには戻らず、さらに南の町フュッセンに向かいました。ノイシュヴァンシュタイン城で知られる町ですが、どんちゃん騒ぎのミュンヘンとは打って変わって穏やかでのんびりとした美しい町です。もちろん山の上にある城には行きましたが、麓にあるアルプ湖では澄んだ水とアルプスの山並みの美しい景色を存分に味わいました。観光客だらけの城



よりローカルの人々が訪れるような静かな自然を味わう方が自分好きな気がします。退職したら住みたい街 No. 1 です。

そうこうしてライブツィヒでの生活がまた始まりました。共同スペースが汚いとこれまでの報告書でたびたび書きましたが、汚く使っていた犯人と思われる同居人が引っ越したようです。それを機に残った同居人のドイツ人たちとキッチンやバスルームの大掃除をしました。言い方は悪いかもしれませんが、引っ越してくれて良かったと心から思います。愛用していた包丁をどうやら持っていかれましたが…。また同居人から教えてもらったのですが、ライブツィヒの学生は nextbike というサービスで自転車を無料で借りられるそうです。一回 30 分以内という制限付きではありますが、移動には十分です。もっと早くから利用しておけば良かったと思いながら今では積極的に使っています。そんなことがあり前よりも快適な生活ができている気がします。

## 2. 勉学の状況

ドイツに戻ってきてから久しぶりにドイツ人の友達と会い、タンデムをしました。2 日間かけて行い、それぞれドイツ語と日本語の日に設定し、約 5 時間ずつそれぞれの言語で会話をしました。さすがに 5 時間も会話すると途中で話すことがなくなったりしましたが、その分多くのことを学べたと思います。

9 月もまだ夏休みだったので授業はありませんでしたが、10 月半ばからまた授業が始まるのでそろそろ来学期に取る授業を検討し始めています。前学期のスケジュールが少し忙しかったのと論文の準備を今学期から始めたいので、今学期はそんなにたくさん授業は取らなくてもいいかなと考えていますが、できればドイツ語能力をもっと高めたいのでどうしようかと悩んでいます。



フュッセンのアルプ湖



Okoberfest 正面入り口

やっと聴きに行けた  
ベルリン・フィルの演奏会



森鴎外記念館（ベルリン）

Rosental 公園からのライプツィヒの眺め





## 海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2019/10/01 ~2019/10/31 )

### 1. 勉学の状況

3か月にも及ぶ長い夏休みが終わり、ようやく今月から新学期が始まりました。10月のはじめ2週間は大学の新生や新しく来た留学生のためのオリエンテーション期間で、本格的に授業が始まったのは3週目の14日からです。このオリエンテーション期間があったおかげで前学期とは違い、履修する授業を検討する時間がありました。いまだに履修関係で悩んでいる部分もありますが、とりあえず現在参加している授業を紹介します。

#### ● *Vorlesung - Einführung in die Literaturtheorie*

文学理論についての講義です。一部の文学理論を紹介し、その理論を用いて実際に文学作品を分析します。内容的には難しそうに聞こえますが、千葉大の授業で聞いた内容と被る部分があり、とても興味深いです。留学生は4, 5枚ほどのレポートを提出することでLeistungsscheinが貰えるそうです。自分の研究テーマに関係した内容なので、受けてみることにしました。

#### ● *Vorlesung - Einführung in die Literaturwissenschaft*

こちらも講義で、内容は文学という学問一般について概観するというものです。留学生は特別に口頭試験が課されるようですが、教授の話すスピードが速く理解しづらいのと、他の試験で手いっぱいになりそうなので聴講にしようかと考えています。

#### ● *Vorlesung - Einführung in die Historische deutsche Sprachwissenschaft*

ドイツ語史についての講義。主に中高ドイツ語に焦点を置いてドイツ語の変化の歴史を学んでいきます。教授はとてもフレンドリーで気さくな方です。口ひげが濃いので何を言っているのか聞き取れないことが多いです。これも聴講だけにする予定です。

#### ● *Vorlesung - Grundzüge der Lexikologie der deutschen Gegenwartssprache*

#### ● *Seminar - Ausgewählte Probleme der Lexikologie und Phraseologie*

#### ● *Seminar - Wortbedeutung, Wortbildung und Wortbildungsdidaktik*

この3つの授業はGermanistik学科ではなくDeutsch als Zweit- und Fremdsprache (第二言語・外国語としてのドイツ語)学科の授業です。この3つで一つのモジュールが構成されており、すべて履修するとECTSポイントが10ポイントもらえます。留学生は部分履修でも成績証明書が貰えますが、どうせなら内容的に関連した授業をまとめて受けた方が理解が深まるかなと思い、すべてに参加することにしました。ドイツ語の語彙論(Lexikologie)についてのモジュールで、ドイツ語教育というよりは言語学寄りの内容だと思います。ゼミは受講生中心で授業が進んでいくため毎回の課題は必須です。参加者は半数近くが(正規・エラスムス含め)留学生のようです。

#### ● *Übung - Übersetzen und Dolmetschen (Deutsch-Japanisch)*

先学期に引き続き、日本出身の先生によるドイツ語→日本語の翻訳の授業です。日本学科の院

生向けの授業で、少人数で行われています。

- **Aufbaukurs: Sprachpraxis Grammatik**
- **Deutsch für Studierende der Sprachwissenschaften**

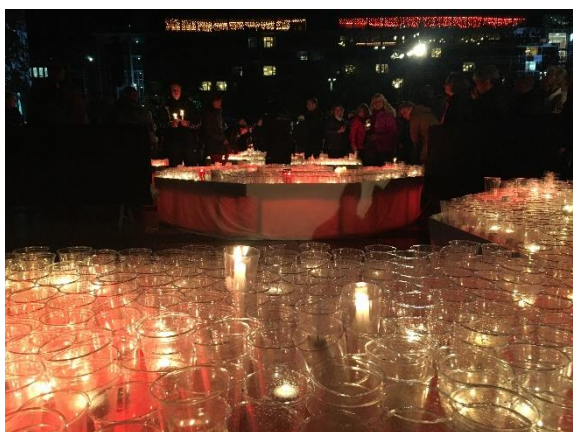
上の二つは留学生向けのドイツ語クラスです。本当はもう少し受けたい授業があったのですが先学期に受けた授業より上のレベルの授業は開講されておらず、しかも一度受けた授業は再履修できないそうで、実際に登録できたのは主にこの2つだけでした（他にもドイツ語集中コースがありますが、300 ユーロかかるのとスケジュール的に難しかったので辞めました）。一つ目は文法についての授業で、C1 レベル向けです。二つ目は主に言語系の分野を専攻している学生向けの授業で、コーパスを使ったの検索方法や言語学関連の用語などを学びます。今学期に履修している授業に密接に関連しているので面白そうです。

今は計9コマ受けていて、課題の負担量が未知数なので途中で履修を変えるかもしれませんが、とりあえずはこれで頑張りたいと思います。また、今学期は履修するためにエラスムス学生用の Learning Agreement を記入して学部提出することと、授業によっては先生が提示するリストに名前を記入することが必要です。

## 2. 生活の状況

新学期が始まってからかなり寒くなってきました。今までも雨が降る日はだいたいいつも気温は低めでしたが、最近は晴れでも厚手のコートが必要なくらい寒いです。日も短くなってきて、かなり秋らしくなってきました。





10月は新学期が始まるという節目の月であるだけでなく、ドイツ、特にライプツィヒの歴史において様々な重要な出来事が起きた月でもあります。まず10月3日はドイツ統一記念日で、再統一後29年を祝ってベルリンのブランデンブルク門付近では大規模なイベントが催されていました。10月9日はライプツィヒで Licht Fest という行事がありました。1980年代、街の中心部にあるニコライ教会で市民が平和への祈りをささげて集会を開き、それが発端となって民衆運動が拡大していきました。ちょうど30年前の1989年10月9日のデモでは7万人以上が参加したのにもかかわらず市民と当局との武力衝突は起こらず、平和的に民衆運動が旧東ドイツで広がっていき東西ドイツ統一へとつながっていきました。東西ドイツの統一運動はライプツィヒが発端となったと言っても過言ではないです。Licht Fest では中心部の道路が封鎖され、30年前の出来事を想起し市民がろうそくを灯しに集まりました。実はちょうどこの日、隣町の Halle でシナゴークを標的にした銃乱射事件があり二人の方が亡くなったというニュースがありました。ライプツィヒ市長も記念集会の演説でそのことについて触れていましたが、統一後平和を進めてきた今でもまだ排他的な考えを持った人がいるというのは悲しいことだなと思います。自分もこのイベントに参加しましたが、人々がデモを行った雰囲気、空気感を感じられたのが一番印象に残っています。

ライプツィヒでの生活面について記しておく、新学期が始まり新しい同居人が引っ越してきました。新しく来た二人はドイツ人で、これで自分以外の4人は全員ドイツ人ということになります。会話をするときは当然ドイツ語のため、かなり良い環境だと思います。みんなフレンドリーで、寮のみんなで食事をしたりパーティーを開いたりなど、先学期よりも交流が深まった気がします。流石に大人数のドイツ人同士の会話は早すぎて割って入るのはなかなか難しいですが、留学初めの頃よりは理解できる部分は多くなったかなと前向きに思っています。

そして、今学期から大学の学生オーケストラに入りました。団員オーディションに合格して、様々な演奏会に向けて毎週月曜夜の練習に参加しています。こちら指揮者の言葉がうまく聞き取れないことがありますが、日本でも長い間オーケストラに所属していたので雰囲気でも分かることもあり、なんとか楽しくやっています。



Licht Fest 当日の道路の様子  
当時の人々はこの道を歩いたようです

ポツダム会談が行われた  
ツェツィーリエンホーフ宮殿



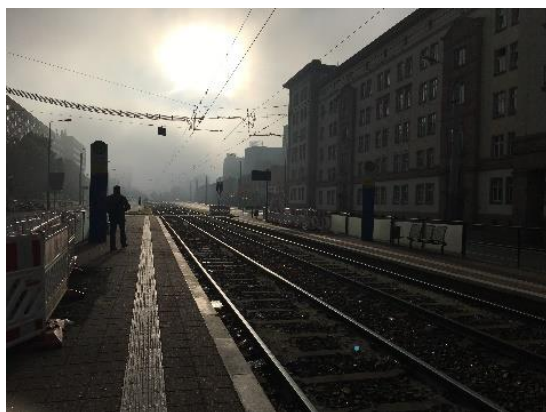
ドレスデン近郊にある  
Sächsische Schweiz

新学期恒例  
日本学科の学生たちとのボーリング大会



ライプツィヒ、諸国民戦争の記念碑  
10月19日が記念日だそうです

寒くなり霧が立ち込める  
最寄りのトラム停留所



## 海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2019/11/01 ~2019/11/30 )

### 1. 勉学の状況

先月号に週9コマの授業に出ていると書きましたが、流石に予習復習が追い付かなくなってきました。ドイツ文学入門とドイツ語史についての講義2つは出席を諦め、その時間を他の授業の勉強に充てています。やはり一番忙しい授業は2つのゼミです。一つは Phraseologie (慣用語法)、もう一つは Wortbildung (造語・語構成) という分野で、授業の進み方はどちらも大体は同じです。毎回の授業後に先生から読むべき文献を指定され、次回までにそれを読み込み、授業でそのテーマについてディスカッションなどを行いながら理解を深めていきます。Wortbildung のゼミではグループごとにそれぞれ与えられた課題を行い、Moodle にアップロードして授業で発表することもあります。外国語としてのドイツ語の分野なので留学生でも比較的理解しやすく、しっかり予習さえしていけば授業についていけないことはあまり無いです。が、毎週3、40ページは読まなければいけないので予習にかなり時間を要します。なんとか読み終えても量が多くて内容が整理できず、授業中に自信もって発言できないことがしばしばです。それでも小さなグループディスカッションの機会があれば、できるだけ積極的に意見を述べるように心がけています。

他に受けている授業にもだんだんと慣れてきました。日本学科の翻訳の授業では間近に迫ったオリンピックの話題から日本の慰安婦問題、貧困問題まで幅広い分野の記事を読み、自分の国を見つめなおすいい機会になっています。文学理論の講義では留学生用のエッセイ課題のために Tutorium (補習授業) が開かれ、チューターのドイツ人学生がエッセイのテーマ決めを手伝ってくれました。ゼミの課題と後述する大学オケ等々の忙しさでまだ着手できていませんが、提出締め切りが1月上旬にあるため年末の休暇を利用して書かなければいけません。

Studienkolleg でのドイツ語の授業は、大学の授業の合間の息抜きとして楽しく参加しています。文法の授業はC1レベルということもありかなり複雑な内容です。今までドイツ語文法はほとんど理解していたつもりでしたが、この授業を受けるとまだ自分の知らない文法が山ほど出てきて、毎回目から鱗が落ちる思いです。これまでに扱った内容は機能動詞表現、助動詞 mögen/möchten の用法、モダリティです。11月は機能動詞表現のテストがあり、勉強したおかげで満点を取りました。

## 2. 生活の状況

11月になるともう東京の真冬くらいの気温で、厚手のコートは毎日必須です。サマータイムが終わり日照時間も短くなったうえ、雲が多い空模様で全体的にどんよりとしています。気分的に落ち込みやすいこの時期を乗り越えるにはできるだけ外出したほうが良いと何かの記事で読んだのでなるべく自宅には籠らないようにしています。というよりも11月下旬からライブツィヒや各地でクリスマスマーケットが始まり、それらを練り



歩くのを逃す手はありません。ライブツィヒのクリスマスマーケットは特に大規模ながらコンパクトに中心街にまとまっているので、毎日気軽に散歩していても楽しいです。ライブツィヒの他

には先日、隣国チェコのプラハに日帰りで行ってきました。なんとライブツィヒ中央駅からチェコ鉄道の列車が出ており、直通3時間半ほどで行けます。チケットも往復40ユーロ以下と格安です。朝6時前に出発、ちょっと遠めの日帰り旅行でしたが行ったかいはありました。先学期にも一度旅行しましたがクリスマスの雰囲気漂うプラハもまた一味違って、本当に素晴らしい光景でした。

### 〈寮での生活について〉

寮の同居人はみんなそれぞれ異なる分野を専攻しているため生活リズムがバラバラで、お互いに顔を合わせる機会はそこまで多くありませんが、みんなが集まる時にはたまに一緒に夕食を食べたり、同居人が寮でパーティを開くときには誘ってくれたりするなど、おかげであまり寂しさを感じずに生活できています。そう考えると大人数のシェアフラットを選んでよかったなと思います。

半年以上ここに暮らしていて初めて同居人から教えてもらったのですが、住民は家賃とは別にZDFという放送局(?)に対して毎月の支払が義務付けられているそうです。実はそれに関する通知書を何か月前にもらっていたのですが、自分には関係ないと思い完全に無視していました。入居の際にはそのことに関する説明が一切なかった(はず)のでよくわかりませんが、もし将来ライブツィヒでの留学を考えている人がいればと思い、ここに書いておきました。



#### 〈大学オーケストラ〉

オーケストラに入ってまだ1か月と少ししか経過していませんが、ありがたいことに11月下旬にコンサートに出演させてもらう機会がありました。全体で練習する時間は3日ほどしかなくゼミの課題と並行して忙しいスケジュールでしたが、無事に演奏会を終えることができました。オーケストラの中では自分はおそらく唯一の交換留学生で、どう受け入れられるかと少し懸念していましたがコンサートを聞いていたお客さんが演奏会後に直接「あなたの演奏良かったよ」と声をかけてくださり、多少なりともオーケストラに貢献できたかなと思います。

オーケストラの友達が先日パーティに誘ってくれました。ドイツ人によるいわゆる典型的なドイツ式パーティです。日本みたいに誰かの家に集まって料理を作るのではなく、各々が作った料理を持ち合わせ、みんなでシェアしながら食べるというのがドイツでは一般的なようです。あと集合時間は一応告知されますが遅れていくのが普通です。外国人は自分だけだし日本食ならばずれは無いらろうと思い、おにぎりを作って持っていきました。Milchreisを炊いてふりかけを混ぜただけの簡単なものです。他にも色々な日本食を考えましたが、ドイツでは環境や健康のことを考え肉・魚類を一切食べない人が日本に比べてはるかに多いので、何でもかんでも日本食を勧められるわけではありません。それで無難なおにぎりを選んだわけですが（本当の一番の理由は簡単だったからでもある）、結果としては好評で、みんな喜んで食べてくれました。



パーティで一緒に作った Feuerzangenbowle。赤ワインにブランデー、ラム酒などが混ざりかなりのアルコール度数。グリューワインと並んでクリスマス定番の飲み物です。





Wilma の遠足・エアフルト



Wilma 主催のイベントにて  
約 15 年ぶりのスケート

大学で行われた環境保護ストライキ  
この影響で休講になった授業も



## 海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2019/12/01～2020/01/10)

### 1. 勉学の状況

本来 12 月の授業はクリスマス休暇のため 3 週間ほどで終わりますが、今月中旬に両親がこちらに遊びに来て 1 週間ほど一緒に旅行をしたため、実際に授業に出たのは約 2 週間分でした。授業の内容が複雑になってきた＋クリスマスのムードを味わいたいという状況で予習復習をこなすのは困難でしたが、なんとか乗り切りました。

これまでの Phraseologie (慣用語法) のゼミではドイツ語における慣用句、決まり文句等をシンタクスや意味上の観点から分類し分析するというものでした。最近は焦点が実際のドイツ語教育の領域に移り、それらの表現が教材の中でどのように扱われているか、また何を目的としてその教材が作られているのか、などを分析しています。それにあたって母語話者だけでは分析が難しいため、留学生などのドイツ語学習者の意見も取り入れられながらゼミが行われます。

Wortbildung (造語・語構成) のゼミでも同様に、語構成に関する理論や練習問題がドイツ語教育で用いられる教材のなかでどのように扱われているか、という問題を議論しています。授業を受けながら、自分はこれまでのドイツ語学習においてこうした問題に取り組んだことがないなど気づきました。日本では CEFR ではなく独検がドイツ語能力の基準として語られることが多いのでそうしたギャップを感じるのは当然ですが、いくら独検で結果を出してもここではほとんど通用しないので、日本のドイツ語教育においても、ドイツでのドイツ語教育に倣った基準がもう少し浸透すれば良いと思います。

この二つのゼミは Lexikologie というモジュールを構成している授業で、これに Vorlesung (講義) も合わせた全体のテストが 2 月頭に予定されています。留学生は紙の辞書は持込可だそうですが、覚える事項が多いのでテスト勉強は多くの時間を要しそうです。最近気づいた良いことですが、課題の文献を読む時に辞書を引く回数が初めの頃に比べて格段に少なくなり、ドイツ語の論文を読むことに対する抵抗が減りました。

そしてこの報告書を書いている今、どうにか文学理論の講義のエッセイを終わらせて無事に提出しました。授業内・外で興味を持った文学理論一つを用いてドイツを分析するという課題で、自分は Intertextualität (間テキスト性) の理論をテーマにして書きました。ドイツ語で文を書くことよりも全体の構成を考える際にかなり時間を要しました。A4 の紙 4 枚だったので書く量はそれほど多くありませんでしたが、年末年始特有の Schlappeheit (無気力感) もあってなかなか進まず、なんとか提出できたのは締め切り当日でした。ただこのエッセイを書いたことで千葉大での卒論執筆の糸口も少し見えたような気がします。結果が楽しみです。

## 2. 生活の状況

12月の初めにまたオーケストラのイベントに参加させてもらう機会がありました。先月のコンサートと合わせて2週間連続で本番があったため非常に忙しい月初めでしたが最高の経験でした。皆オーディションを経て団員となっているだけあって、アマチュアとはいえ演奏のレベルは総じて高いと思います。そんな環境で自分も演奏できるのは本当にありがたいことです。残すは年が明けて1月にある期末コンサートのみなので、勉強と並行してなんとか練習についていきたいです。



その他生活面で12月に何をしていたかという点、旅行が多かったような気がします。むしろ旅行でお金を使いすぎて年明けは少し自粛しようと思っているくらいです。前述した両親との旅行ではライブツィヒのほかベルリン、ドレスデン、ニュルンベルク、そしてオーストリアのインスブルックを訪れました。それ以外に個人的にも出かけましたが、色々な街のクリスマスマーケットをめぐるのはなかなかいいものです。どんな

に小さな町のマーケットでもその町独特の雰囲気や漂わせていたり、あまりメジャーではない町に行ってみたら意外に美しい光景が広がっていたり（個人的にはゴスラーのマーケットがライブツィヒに次いでNo. 2）全く飽きませんでした。行きたかったのに行けなかった所はまだたくさんあるので、将来またいつかクリスマスにリベンジします。



クリスマス休暇に入ると友達はみんな故郷に帰ったり旅行したりしていましたが、自分は旅行にはもう満足していたので寮で過ごしました。同居人も全員帰省していたので空っぽの寮で過ごすのは少し寂しい気もしましたが、たまにはこういう静かでリラックスできる空間で過ごすのも大事だと思います。年末年始も特にやることなく寮で過ごしていましたが、年越しの瞬間くらいはと思い Augustus 広場の花火を見に行きました。年越しが待ちきれないのか、大晦日の日は午前中からすでにあちらこちらで花火の爆発音が聞こえていました。そして真夜中になると大勢の人が花火をボンボン飛ばしまくり、さながら戦場のような様子でした。打ち上げに失敗して地面で爆発してしまう花火もあるので本当に油断は禁物の年越しイベントです…。2020年になってからもしばらくは花火の音が鳴りやまず、翌朝外に出てみるとそこら中に花火の残骸が散らばっていて、とにかくこちらの年越しは日本とはかけ離れて非常に verrückt (クレイジー) です。ただ毎年この花火による空気汚染が大きな問題になっているということで、ベルリンなどでは今年になって規制が厳しくなったそうです。昨今は特に環境保護運動が盛んになってきたこともあり、このような花火が見られなくなってしまう未来はそう遠くないのかもしれない。



Goslar のクリスマスマーケット



Innsbruck 旧市街



チロル地方のクリスマス名物 Kiachl

ドイツ最高峰 Zugspitze  
夜行バスを駆使すればライプツィヒから  
宿泊なしで登りに行けます。  
※ただし非常にハードな行程



## 海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2020/01/11～2020/01/31)

### 1. 勉学の状況

今月は Studienkolleg Sachen で受けている 2 つのドイツ語の授業でそれぞれテストがありました。文法のテストは範囲が広く対策が不十分だった感は否めませんが満足いく結果です。内容はドイツ語の助動詞、話法詞、機能動詞表現、動詞の名詞でした。もう一つは言語学専攻向けの授業のテストで、授業の資料や辞書だけでなくパソコンも持込可（というよりインターネット無しでは解答できないテスト）でした。ありとあらゆるオンライン辞書やコーパスを駆使してドイツ語の語彙の細かなニュアンスや用法をとことん調べ上げるといった内容です。ドイツ語能力があまり問われず楽なように聞こえますが、必要な情報を見つけ出すのに意外と時間がかかり試験の手ごたえも微妙でした。それでも結果的には9割以上取れていました。

以上 2 つの授業以外はいつもと変わりなく進んでいきました。2月に試験が待ち構えている Lexikologie (語彙論) の授業では Moodle に Probeklausur (実際の試験と同じ構成の見本の問題用紙) がアップロードされ、それをもとに試験対策をしています。専門用語がいまいち頭の中で整理できていなかったり記述式の解答に慣れていなかったりと色々な不安要素がありますが、試験前に本番同様の問題で対策できるのはありがたいです。

前学期同様授業の合間を縫ってドイツ人学生とタンデムで会話練習をしていますが、あまり時間が無いため前学期は週4回のペースだったものを今学期は2回だけにしています。一人は日本学科の学生、もう一人は情報科学専攻だけれど趣味で日本語を勉強しているという友人です。タンデムでの会話を積極的に続けてきたおかげか、留学初めの頃よりドイツ語の表現の幅が広がったなど自分でも思えるようになりました。タンデムの継続は非常に大事です。初対面の人と外国語で会話しても自己紹介だけで終わってしまうことがほとんどですが、回数を重ねて相手と仲良くなると(良い意味で)遠慮が無くなり話すことに集中できるようになるほか、会って間もない人よりも少し突っ込んだ会話もできるようになります。

ただこちらが何も準備せずにタンデムに臨んでしまうと得るものも少ないので、今日はこれについて会話しようとか、この宿題を見てもらおう、などを毎回考えて、残り少ない時間でできるだけ多くのことを学べるように工夫したいです。

## 2. 生活の状況

### 〈大学オーケストラ〉

このオーケストラの一大イベント Semesterkonzert (学期末コンサート) の一週間前にライブツィヒ近郊の Naumburg で合宿があり、二泊三日の集中練習に参加しました。ユージェントヘアベルゲを貸し切って朝昼晩の練習、また Kaffee-Pause と称したティータイムではお喋りをするなど楽しく過ごし、同室の友達とも仲良くなれました。

合宿後から演奏会まで一気に周りのムードが高くなっていくのが感じられこの一週間は怒涛の勢いで過ぎていきました。合宿の翌日は大学で最後の通し練習 (所謂ゲネラル・プローベ)、その2日後にはライブツィヒ市のとあるギムナジウムの講堂でのプレ・コンサートで初めての一般公開、そしてようやく週末にゲヴァントハウス・コンサートホールでの演奏会です。この



由緒ある世界的に有名でホールで演奏できるだけでも誇らしいことですが、チケットが演奏会2日前に完売になったことで本番前はかなりプレッシャーが…。本番は両親が日本から送ってくれた礼服を着てステージに立ち、自分が出演する前半の演目と後半終了後のアンコールにも歌唱で参加。無事に演奏会を終えました。

実は留学に来る前からこのオーケストラには興味があり、参加できたらいいなという程度に考えていました (そのために日本からわざわざ重たい楽器を持って行ったのですが…)。留学前半は授業の忙しさ等々であきらめざるを得なかったのですが、後半では絶対に参加してやるぞという気持ちで飛び込みました。一緒に参加する友人はいなかったため初めのオーディション応募から練習参加まで何もかも手探り状態でしたが、自分がひそかに抱いていた目標を達成できました。勉強だけでなく現地の文化的なコミュニティに参加できることも留学の醍醐味です。

### 〈ライブツィヒでの生活〉

演奏会が終わった後もしばらくその余韻に浸っていましたが、そのほかの出来事についても記しておきます。クリスマスマーケットが跡形もなくなったアウグストゥス広場に今度はスケートリンクが建設され、オープン後から毎日多くの人がスケートを楽しんでいます。自分も友達と (実に15年ぶり) 滑りに行きました。クリスマス以外にも常に何かしらのイベントが催されて一年中飽きが来ないのもライブツィヒの魅力です。

その他エラスムスの友達とパーティーに行ったり寮の同居人とご飯を食べたりと、残りの日数が少なくなっていくのを感じながら楽しく過ごしています。



Naumburg での合宿  
セメスターチケットで行けるため  
交通費はかかりませんでした。

ギムナジウム（高校）での  
プレ・コンサート



演奏会前日  
オケの友人宅でカレー作り

ライプツィヒ  
アウグストゥス広場のスケートリンク



## 海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2020/02/01～2020/02/27)

### 1. 勉学の状況

〈テストについて〉

語彙論のモジュールの筆記試験がありました。テストではモジュールを構成する講義1つとゼミ2つ、計3つの大問があり、交換留学生は(正規学生とは異なり)受講していた授業の問題だけを解答することが許されます。合格にはいくつ大問を選ぶかにかかわらず60%以上を取る必要があります。合格すると部分解答の場合は4 ECTS、全て解答する場合は10 ECTSの単位がもらえます。自分はすべての授業に参加していたので全ての授業の問題を解きました。また外国人留学生だけは試験中に試験官が用意した独辞典を使ってもよいとされており、ドイツ語の語彙力が問われるのではなく思考力が試される試験ということでした。

試験対策として、先月の報告書で書いた Probeklausur や過去問を実際に解いてみたり、授業のスライドや資料を見返して用語をまとめたりしました。Probeklausur と同じ形式の試験が課されるというアナウンスが事前にあったため対策はしやすかったのですが、試験本番で時間が足りなくなってしまい十分な解答が書けず焦ってしまったので、もう少し時間を気にして演習に取り組めばよかったと思います。

試験の結果はすぐにはわかりませんでした。実はこの報告書、帰国して1か月後くらいに書いていますが、先日大学にメールで問い合わせはじめて合否がわかったのです。ライプツィヒ大学の留学生はネット上で履修登録をするわけではないためこのあたりの仕組みがわかりづらいのですが、留学生は直接問い合わせないと成績ははっきりしないことがあります。試験の採点自体が帰国日に間に合わない可能性もあるため、千葉大で単位申請をする場合はその辺りも考慮するべきかと思います。ちなみに自分の全体の成績表が帰国までに完成が間に合わなかったためひとまずメールでスキャンデータを送ってもらい、原本はあとから郵送で送ってくださるそうです。

〈ドイツ語能力について〉

さて、1年間の留学が終わり、これまでのドイツ語生活を振り返って少し語学能力についても記しておきたいと思います。

留学では実用的なドイツ語能力が伸びました。留学前に千葉大の授業でドイツ語の文献を読んだり Goethe-Zertifikat の B2 を取得したりとドイツで生きていけるだけのドイツ語は身につけていきましたが、現地の授業で知識を活かせるほどの実用的な能力はありませんでした。当然ですが、文法書だけを読み漁っていても決してプレゼンテーションは上手くできませんし、レポートも書けません。プレゼンが上手くなりたければ他の学生のプレゼンを聴く、レポートが書け



るようになりたければ多くの文献を読む、といった「本物のドイツ語」に触れることが大事になってきます。留学ではそうした学問の観点から実践的なドイツ語を身をもって体験できたことが一番自分の力になったのかなと思います。

それでもまだ課題はあります。ディスカッションで手も足も出ない状態だった初めの頃と比べれば少しは話す自信がついた2学期目、ディスカッション中心のゼミに参加しました。授業内容で周りに後れを取ることがあまりなかったものの、日常会話とは異なりアカデミックな場ではより論理的に考えて発言する必要があり、自分の稚拙なドイツ語表現では…と尻込みして発言をためらう場面がよくありました。人を納得させられるような論拠を持ち、学問的な表現も交えながら自分の意見を述べられるようになることがこれからの課題です。

非英語圏で英語以外の言語を用いて生活するなんて少し前まで想像もつかなかったのですが、留学すれば生活には困らない程度にはその言語が身に付きます。そして自分の場合、決して英語力が上がったとは言えません。ドイツ語単語を経由して英単語にたどり着くという思考回路になってしまい英会話で英文がスムーズに口から出てこなくなってしまったのです。頭の中の英語の引き出しが錆びついて動きが悪くなってしまったようです。英語とドイツ語が微妙に似ていたり違っていたりするからか、I have the book read. と言ってしまふことはざらにあります。いずれにせよ、留学後も継続して外国語学習は続けていきたいです。

## 2. 生活の状況

### 〈ヨーロッパ旅行〉

「まだ行ったことがない国・地域」「好きな小説の聖地巡礼」というテーマで一週間ほどのヨーロッパ一人旅に出かけました。行先はロンドン、パリ、ルクセンブルク、ドイツのシュトゥットガルトです。

ちょうど出発日に大型ハリケーンが欧州を襲いロンドン行きの飛行機がどうなるかとヒヤヒヤした他には（結局飛行機は予定通り飛びました）ほとんどトラブルはありませんでした。事前に交通手段や宿泊場所を綿密に計画していたのが良かったです。

一人旅のフットワークの軽さで行きたかったところのほとんどを訪れることができました。またパリで泊まったホステルで出会ったアメリカ人と仲良くなってクレープを食べに行ったり、ルクセンブルク行きのバスで隣に座っていたギリシャ人が偶然同じホステルに泊まることになりルクセンブルクの暗い夜道をホステルを探しながら一緒に彷徨ったりと、まったく退屈しない旅でした。



### 〈ライブツィヒでの生活〉

旅行の後は帰国準備で忙しくしていました。流石に一年も暮らせば私物もだいぶ多くなり、手持ちでは到底持って帰れないと思ったので小さめの段ボール3つに本や衣類を詰めて日本に送りました。寮の近くに DHL の郵便局があったので集荷サービスを利用せず持っていくことができたのは幸いでした。

荷物以外にも帰国にかかわる一連の手続きが非常に煩雑でした。まず退寮の約 1 か月前に寮の管理人にメールで退寮日を伝え、その日付を Studentenwerk にも伝える（寮の敷金を現金で受け取るため）→帰国一週間前になったら住民局で住民票の解除を行う→外国人局へ閉鎖口座解約のための書類を貰いに行く→銀行で口座を閉める→管理人のチェックを受けて退寮→退寮証明書と口座解約証明書をもって Studentenwerk に行き敷金を貰う。これが大まかな順序で、特に最後の一週間はあちこち駆け回っていました。退寮する日は特に大変で、Hausmeister の点検を受けたのち 6 階から荷物を全て下に降ろすために（エレベーターがないため）階段を 3 往



復ほどしました。いい寮でしたがエレベーターの有無はこういう時に重要です。その後 ICE でライブツィヒを発ちフランクフルトで前泊、翌日午前中の便で帰国しました。

←出発前に友人が誘ってくれたお別れパーティ

### 3. 最後に

この留学は自分の研究分野における純粋な好奇心で決断したものでした（将来に結び付けるかどうかはあまり考えていなかった）が、丸一年間の留学を終えてこの留学経験をどうにかして活かし自分のキャリアの中で還元したいという思いが強くなりました。ただその目標を実現するためにどうしたら自分の専門性をさらに深められるか、正直なところまだわかりません。ただ自分の世界観が変わり、日本の既成概念にとらわれない形で将来を考えられるようになったという点で、非常に有意義な留学だったと思います。

いつもまとまらない文章でしたが、これにて私の月間報告書を締めさせていただきます。今まで様々な場面で支援して下さった全ての方々、誠にありがとうございました。